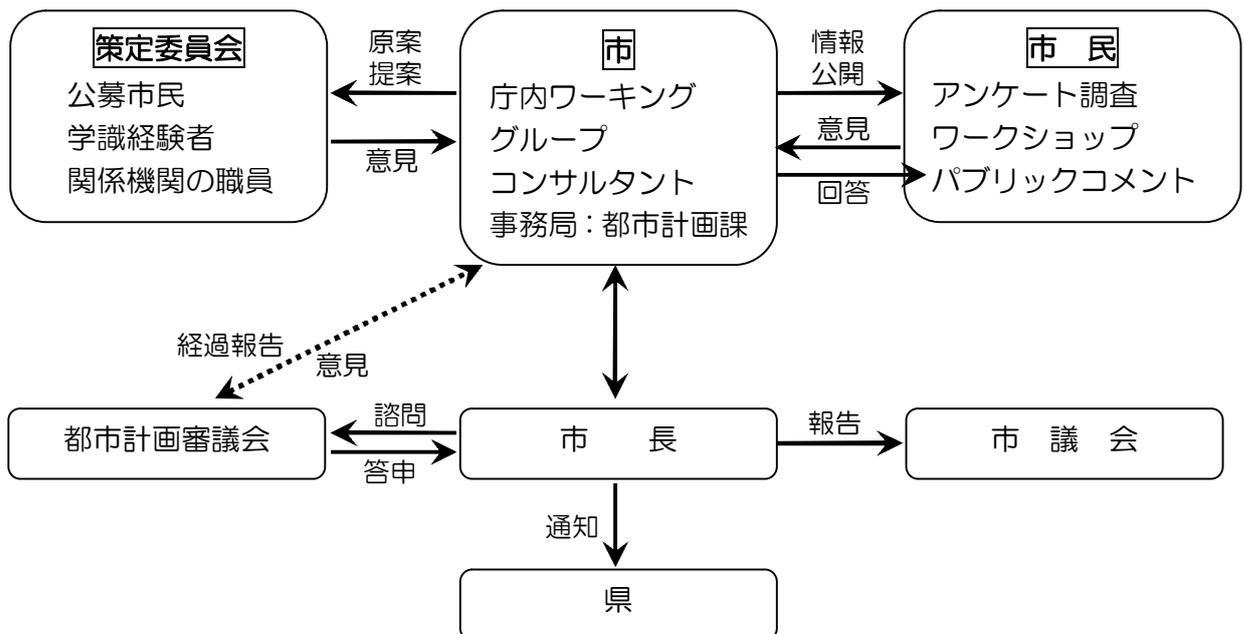


(1) 計画策定体制

都市計画マスタープランは、学識経験者や公募市民等からなる「策定委員会」における審議を経て策定されました。

原案の作成に当たっては、アンケート調査やワークショップを通じて市民の意向を反映するとともに、庁内ワーキンググループにおける協議を経て、関連する計画や事業等との整合を図りました。

図 都市計画マスタープラン策定体制



(2) 策定委員会

策定委員会は、平成20年2月に設置され、計6回開催されました。

表 策定委員会開催概要

	開催日	主な検討内容
第1回	平成20年 2月5日(火)	山陽小野田市の概況、市民アンケート結果等について
第2回	// 4月23日(水)	問題・課題の整理、まちづくり基本目標について
第3回	// 7月16日(水)	全体構想(土地利用等)、地域区分設定について
第4回	// 10月22日(水)	全体構想(都市施設等)、地域別ワークショップ開催経過について
第5回	// 12月22日(火)	地域別構想、実現化方策、計画素案について
第6回	平成21年 3月17日(火)	パブリックコメント結果について

表 策定委員会メンバー

区分	氏名	備考
1号委員 (市民)	石部常登	公募市民
	伊藤敬子	公募市民
	伊藤眞也	公募市民
	今村広宜	公募市民
	河本建二	公募市民
2号委員 (学識経験者)	鵜心治	会長：山口大学大学院理工学研究科教授
	井上雄治	山陽小野田造園協会
	岩佐謙三	小野田商工会議所
	瀬口哲義	山口県景観アドバイザー
	名和田伴江	山陽小野田市社会福祉協議会
	原孝造	山陽商工会議所
	松山忠次	山陽小野田市農業委員会
	村上景二	社団法人山口県建築士会小野田支部
3号委員 (関係行政機関の 職員)	津森哲夫 ^{※1}	山口県土木建築部都市計画課長
	古谷健 ^{※2}	※1：平成19年度委員、※2：平成20年度委員
	中村徹夫	山口県宇部土木建築事務所長

(3) 地域別ワークショップ

山陽小野田市都市計画マスタープランの策定にあたり、住民の目から見た地域の特性や課題、地域のまちづくりのテーマや方向性を明らかにするために、地域別ワークショップを開催しました。地域別ワークショップにおける意見は、地域別構想に盛り込むとともに、必要に応じて全体構想にも反映しました。

地域別ワークショップは、平成20年8月から10月にかけて各地域で4回開催しました。なお、第1回と第4回は全体会場で会議を開催し、第2回と第3回は各地域に分かれてそれぞれ作業を行いました。

表 地域別ワークショップ開催概要

	開催日時	会場	開催の目的	主な作業内容
第1回	平成20年 8月5日(火) 19:00~21:00	商工センター	まちづくりに 関する情報提 供と情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり勉強会(鶴先生講演) ・市のまちづくり情報の提供 ・ミニゲーム開催 ・参加者自由意見交換 ・次回作業内容等の確認
第2回	8月下旬 18:30~21:00 (4会場で開催)	商工センター 高千帆公民館 文化会館 埴生公民館	地域の現況と 課題の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現況情報の提供 ・地域の資源、問題点の発掘 ・地域の現況と課題の整理 ・次回作業内容等の確認
第3回	9月中旬 18:30~21:00 (4会場で開催)	商工センター 高千帆公民館 文化会館 埴生公民館	地域のまちづ くり方針図の とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・現況・課題図の確認 ・課題解決のための対策の検討 ・まちづくり方針図のとりまとめ ・次回作業内容等の確認
第4回	10月8日(水) 18:30~21:00	文化会館	実現化に向け た取り組みの 検討	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトの検討 ・住民主体の取組の検討 ・成果発表

(4) 市民アンケート調査結果

1) アンケート調査概要

① 調査の目的

本市に居住する住民を対象として、現在及び将来のまちづくりに関する市民の意向を把握することを目的とするアンケート調査を実施しました。

アンケートを実施するにあたっては、総合計画策定時に実施したアンケートの結果を踏まえて設問を検討し、現在の居住環境等に関する満足度や、これからの都市政策の重要度意識等を詳細に把握することを主たる目的にしました。

② 調査項目

具体の調査項目（設問）については以下のように設定しました。

- | |
|------------------------------|
| 問1. 属性（性別、年齢、居住地、居住歴、職業、勤め先） |
| 問2. 日常の買い物について |
| (1) 日常の買い物場所 |
| (2) 買い物の際の移動手段 |
| 問3. 自動車・二輪車交通の利用状況について |
| (1) 自動車や二輪車を使うときの不便な点 |
| (2) 各種道路の必要性 |
| 問4. 山陽小野田市の中心市街地について |
| (1) 市民の考える山陽小野田市の中心市街地 |
| (2) 中心市街地で不足している施設 |
| 問5. お住まいの地域について |
| (1) お住まいの地域で心配なことについて |
| (2) お住まいの地域の、道路、公園、下水道などについて |
| 問6. 今後の山陽小野田市のまちづくりについて |
| (1) 山陽小野田市のまちづくりで重要な点 |
| (2) 山陽小野田市のまちづくりで重要な施策 |
| 問7. 自由回答 |

③ 調査方法・調査期間

○調査方法：郵送配布・郵送回収

○調査期間：平成19年9月14日（アンケート投函）～平成19年10月21日

④ 調査対象者の抽出方法

アンケート回答者は、市内に居住する20歳以上の住民のうち3,000名を対象とし、住民基本台帳を用いて無作為に抽出を行いました。なお、地域別にばらつきが無いようにするため、校区別人口割合に応じて抽出を行いました。

⑤ 回収状況

配布数3,000通に対して、回収数1,472通となり、回収率では49.0%でした。

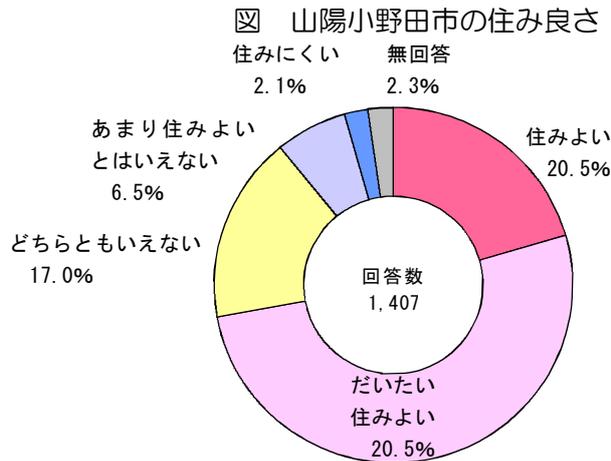
2) アンケート調査結果

今回実施した市民アンケートの結果と、総合計画策定に際して実施された市民アンケートをもとに、本市の住民意向について整理した結果は以下のとおりです（特に出典を示していないものは、今回実施のアンケート調査結果によるものです）。

1. 山陽小野田市の住み良さについて

① 山陽小野田市の住み心地

・「住みよい」と「だいたい住みよい」との回答が全体の72.2%を占めており、「あまり住みよいとはいえない」、「住みにくい」という回答は8.6%にすぎません。

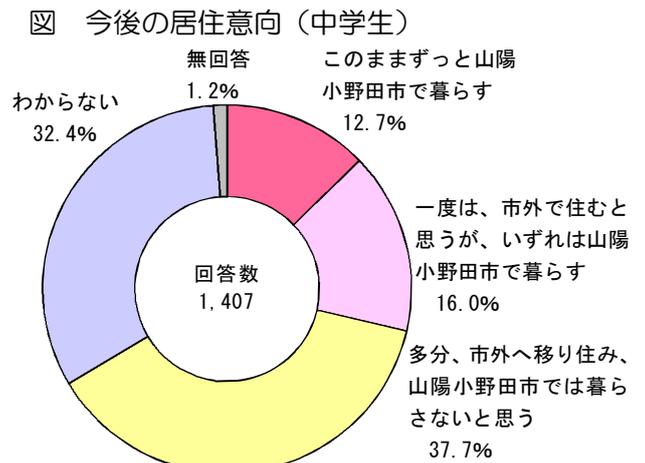
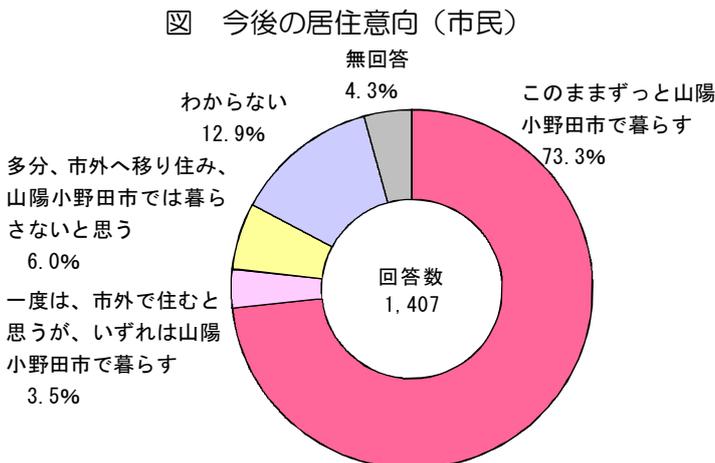


（出典：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書）

② 今後の居留意向

・本市に今後も居住する意向としては、73.3%もの回答者が「このままずっと山陽小野田市で暮らす」と回答しており、市外への転出意向を持つ回答者は10%未満です。

・しかし、中学生アンケートの結果では、「このままずっと山陽小野田市で暮らす」との回答は12.7%に過ぎず、多くの中学生が「都会にあこがれているから」などの理由から、将来的に市外での居住を考えています。



（出典：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書）

② 山陽小野田市の自慢できるものといやなところ

・本市で自慢できるものの上位5位は以下のとおりとなっています。

- ① 新幹線、高速道路、空港など交通の便利さ (39.9%)
- ② 瀬戸内海や山などの自然環境 (36.4%)
- ③ 瀬戸内地域の気候・風土 (35.5%)
- ④ 日常の買い物の便利さ (34.5%)
- ⑤ 江汐、物見山公園などの都市公園の充実 (30.3%)

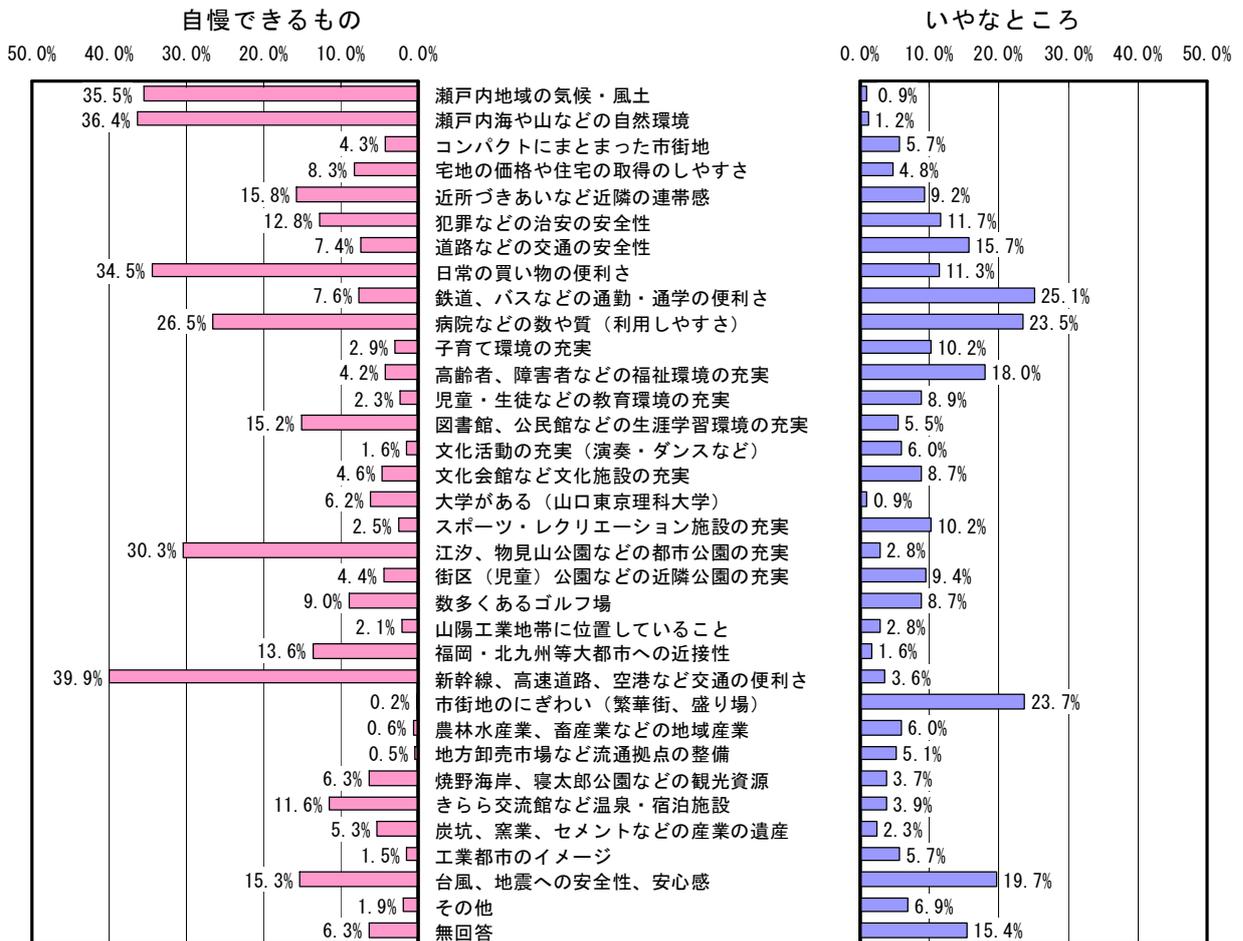
・逆に、本市でいやな点・不満な点の上位5位は以下のとおりとなっています。

- ① 鉄道、バスなどの通勤・通学の便利さ (25.1%)
- ② 市街地のにぎわい (繁華街、盛り場) (23.7%)
- ③ 病院などの数や質 (利用しやすさ) (23.5%) (※)
- ④ 台風、地震への安全性、安心感 (19.7%)
- ⑤ 高齢者、障害者などの福祉環境の充実 (18.0%)

(※病院に関しては「自慢できるもの」としてのポイントも比較的高い)

・広域交通利便性、自然環境、買い物の利便性、大規模公園に関しては満足度が高く、鉄道・バス、市街地のにぎわい、福祉環境等に関しては満足度が低いという傾向を読み取ることができます。

図 山陽小野田市の自慢できるものといやなところ

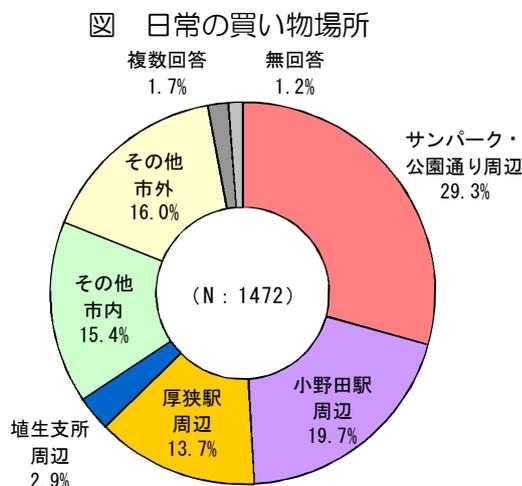


(出典：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書)

2. 市民の日常生活行動について

① 日常の買い物場所

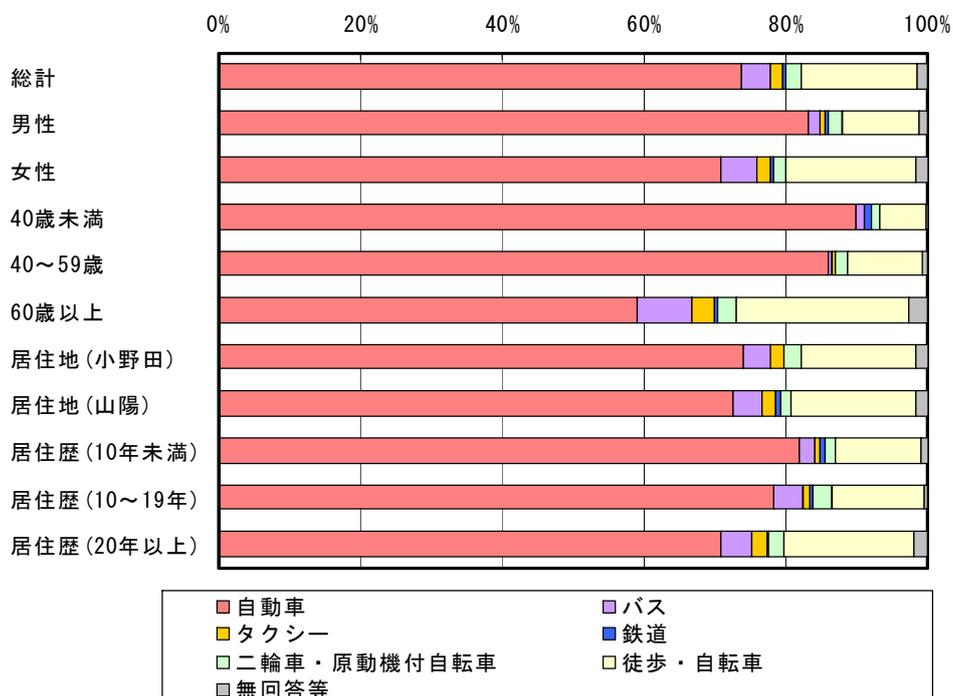
- ・日常の買い物場所については、「サンパーク・公園通り周辺」が最も多く、次いで小野田駅周辺となっています。
- ・年齢が若いほど市外で買い物をする割合が高くなっており、40歳未満の回答者の約3割は市外での買い物が日常的となっています。



② 買い物の際の移動手段

- ・買い物の際の移動手段については、「自動車」が最も多く、次いで多いのが「徒歩・自転車」、「バス」となっており、鉄道を利用する割合はほとんど無い状態となっています。
- ・年齢が若いほど自動車を利用する割合が高く、逆に高齢になるほど「徒歩・自転車」で買い物をする割合が高くなっていきます。「バス」の利用者についても、高齢者の割合が高くなっていきます。

図 買い物の際の移動手段（回答者属性別）

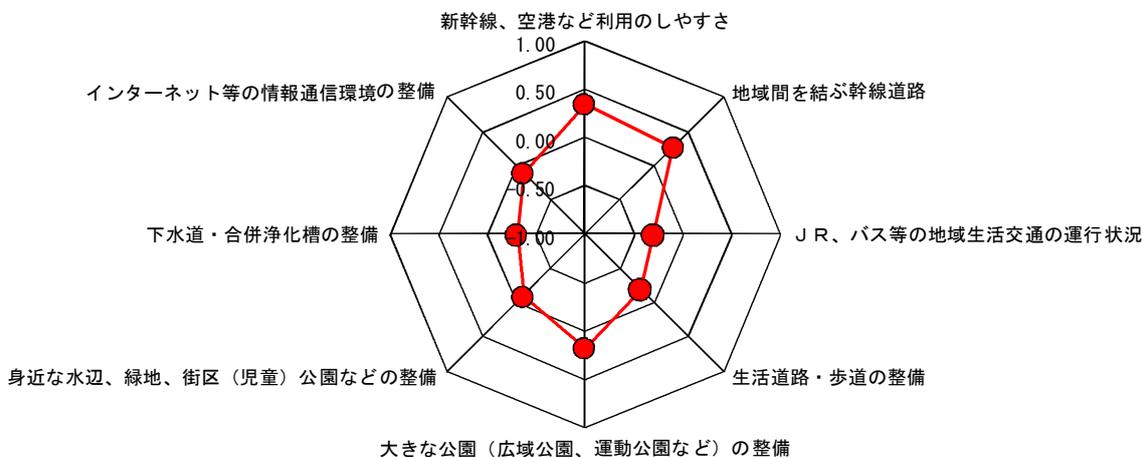


3. まちづくりに関する満足度と不便・不安な点について

① 都市施設

・広域交通条件（新幹線、幹線道路）や大きな公園に関しては、市民の満足度が非常に高くなっていますが、生活道路・歩道、地域生活交通、身近な公園という、生活に身近な都市施設の面では若干満足度が低いという傾向が見られます。

図 都市施設に関連する満足度



（資料：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書）

※満足度評価の算出方法

「満足度」は、アンケートでの満足度（5段階）の回答について、満足をプラス、不満をマイナスにて評価して算出した指標であり、以下のとおり計算を行ったもの。

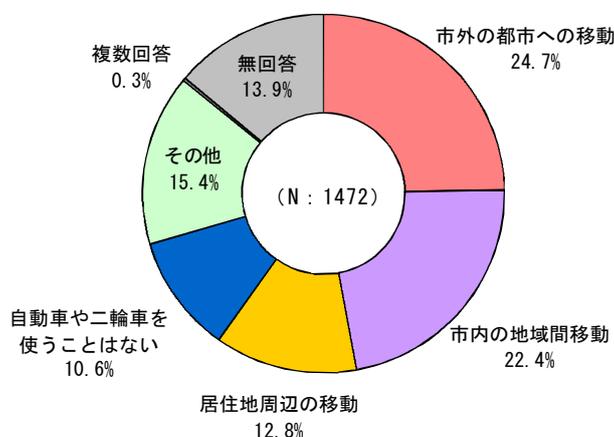
たいへん満足	満足	どちらとも いえない	不満	たいへん 不満
+2	+1	0	-1	-2

$$\text{評価点（満足度）} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「たいへん満足」回答数} \times 2 + \text{「満足」回答数} \times 1 + \text{「どちらともいえない」} \\ \text{回答数} \times 0 + \text{「不満」回答数} \times (-1) + \text{「たいへん不満」回答数} \times (-2) \end{array} \right)}{\left(\text{総数} - \text{「わからない」回答数} - \text{「無回答」回答数} \right)}$$

○ 自動車等を利用する際の不便な点

- ・自動車等を利用する際に不便を感じる時としては、「市外の都市への移動」が最も多く、次いで「市内の地域間移動」となっています。
- ・年齢が若いほど「市外の都市への移動」をあげる割合が高く、高齢になると「市内の地域間移動」を上げる割合が高くなっています。

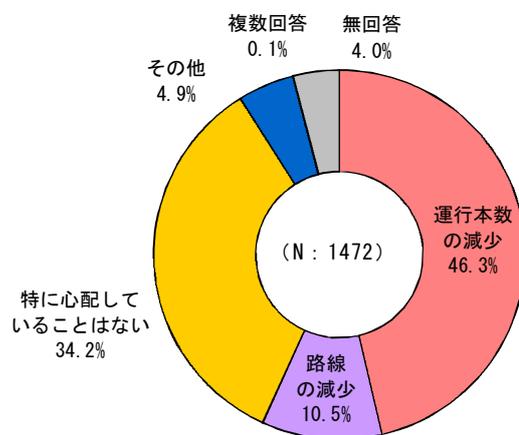
図 自動車や二輪車を使うときの不便な点



○ 鉄道やバスに関する不安な点

- ・鉄道やバスについては、「路線の減少」よりも「運行本数の減少」を心配する回答者の割合が高くなっています。特に、年齢が若くなるほど「運行本数の減少」を心配する割合が高くなっています。

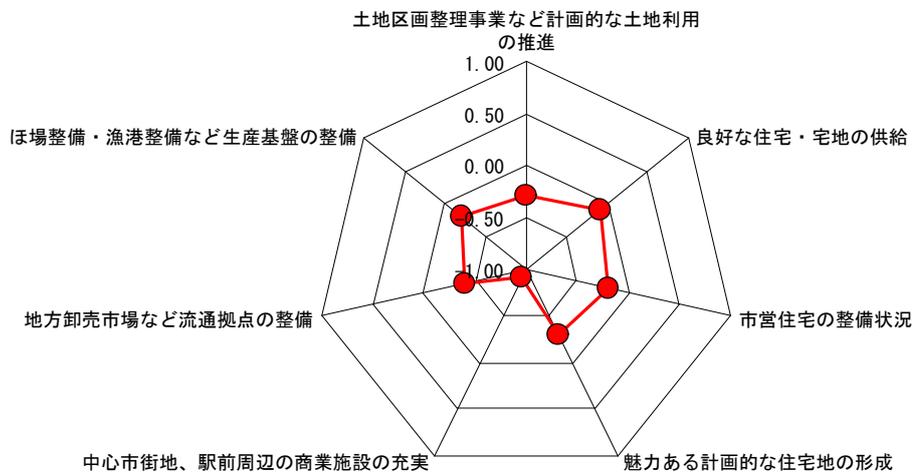
図 鉄道やバスについて心配なこと



② 土地利用

・土地利用に関連する項目全てについて満足度が低いという結果となっています。特に、中心市街地・駅前周辺の商業施設に関しては非常に満足度が低いという結果となっています。

図 土地利用に関連する満足度

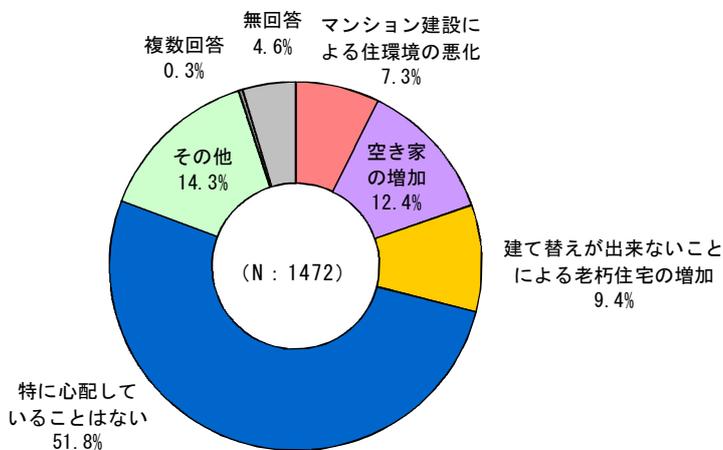


(資料：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書)

○ お住まいの住宅地やその周辺の住宅地について心配なこと

・住宅地及びその周辺については、「特に心配することはない」とする回答者が全体の半分以上となっています。
 ・ただし、高齢になるほど、または居住歴が長いほど、「空き家の増加」を心配する割合が高くなっています。

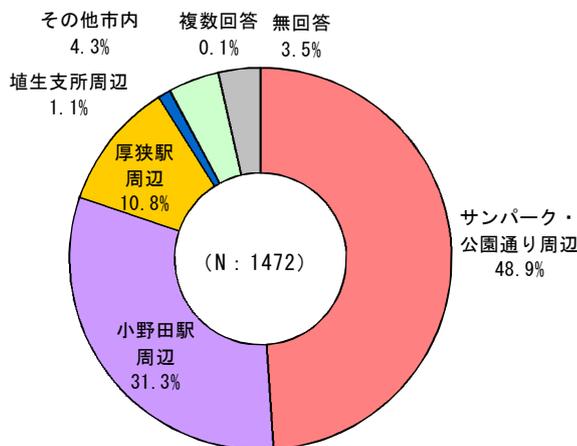
図 住宅地やその周辺の住宅地で心配なこと



○ 市民の考える中心市街地

- ・本市の「中心市街地」については、「サンパーク・公園通り周辺」をあげる回答者が全体の約半分を占めており、次いで「小野田駅周辺」が多くなっています。
- ・年齢が若いほど、または、居住歴が短いほど、「サンパーク・公園通り周辺」をあげる割合が高くなっており、逆に、高齢者や居住歴の長い回答者では、「小野田駅周辺」や「厚狭駅周辺」を中心市街地とする割合が比較的高くなっています。

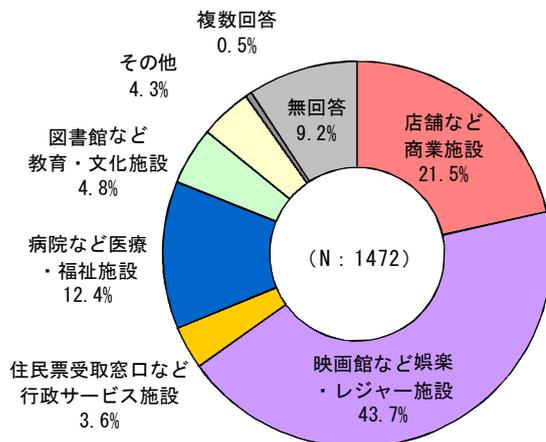
図 市民の考える中心市街地の場所



○ 中心市街地に不足している施設

- ・中心市街地に不足している施設としては、全体的には「映画館など娯楽・レジャー施設」を上げる割合が最も高く、次いで「店舗など商業施設」、「病院など医療・福祉施設」となっています。
- ・年齢別に見ると、若い年齢層では「映画館など娯楽・レジャー施設」をあげる割合が高く、高齢層では「病院など医療・福祉施設」をあげる割合が高くなっています。

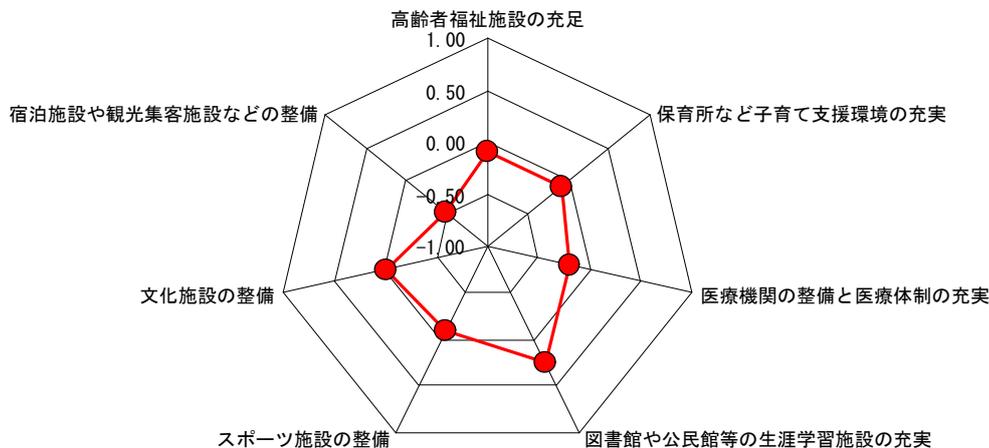
図 中心市街地に不足している施設



③ 各種公共施設

・各種公共施設に関しては、全般的に満足度がそれほど高くありませんが、生涯学習施設に関しては満足度が高いという結果となっています。

図 各種公共施設に関連する満足度

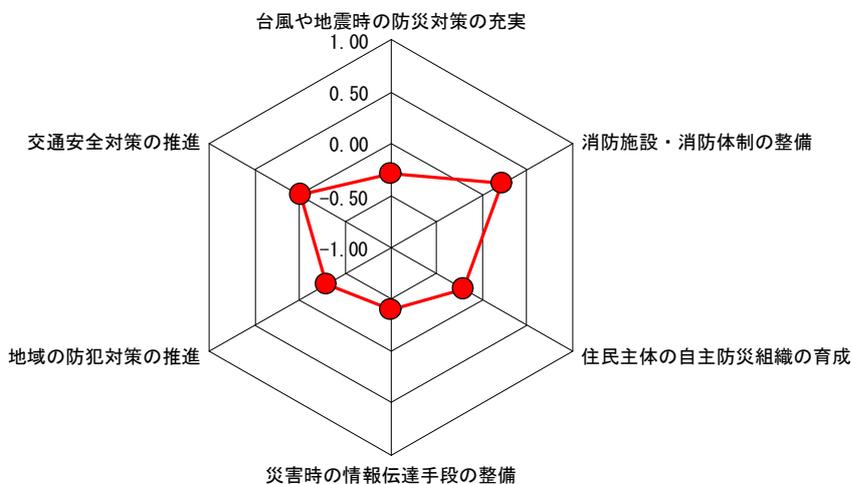


(資料：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書)

④ 安心・安全まちづくり

・消防関連に対する満足度は高いものの、台風・地震等の災害、犯罪等の安心・安全の面では全体的に満足度が低いという結果となっています。

図 安心・安全まちづくりに関連する満足度

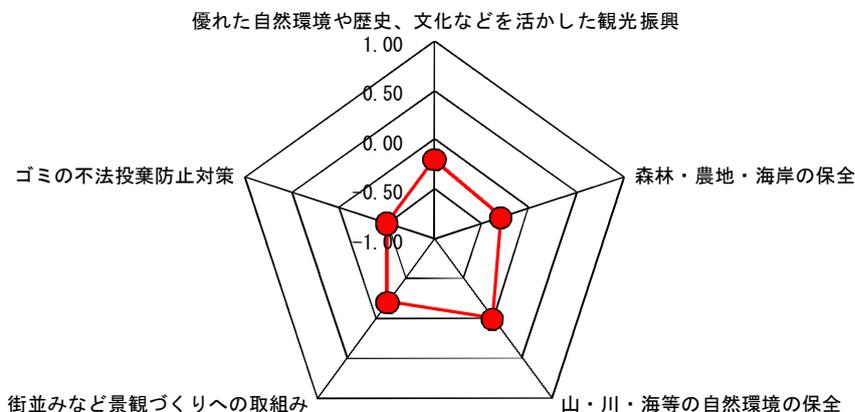


(資料：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書)

⑤ 景観・環境保全

- ・自然環境や景観の保全に対する満足度はそれほど高くないという結果となっており、自然環境の喪失を懸念する意向を読み取ることができます。
- ・また、ゴミの不法投棄防止対策に関しては、非常に低い満足度になっています。

図 景観・環境保全に関連する満足度

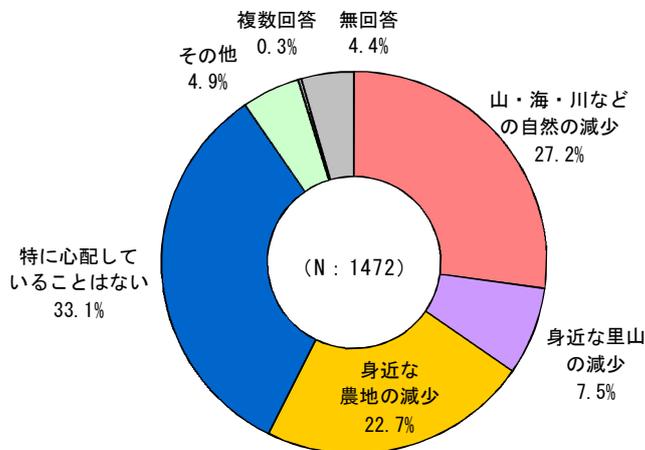


(資料：山陽小野田市総合計画策定業務 アンケート調査報告書)

○ 身近な自然について心配なこと

- ・身近な自然について心配なこととしては、全体的には「山・海・川などの自然の減少」をあげる回答者が最も多く、次いで「身近な農地の減少」、「身近な里山の減少」という順となっています。
- ・年齢が若いほど「山・海・川などの自然の減少」をあげる割合が高く、高齢になるほど「身近な農地の減少」をあげる割合が高くなっています。

図 身近な自然について心配なこと

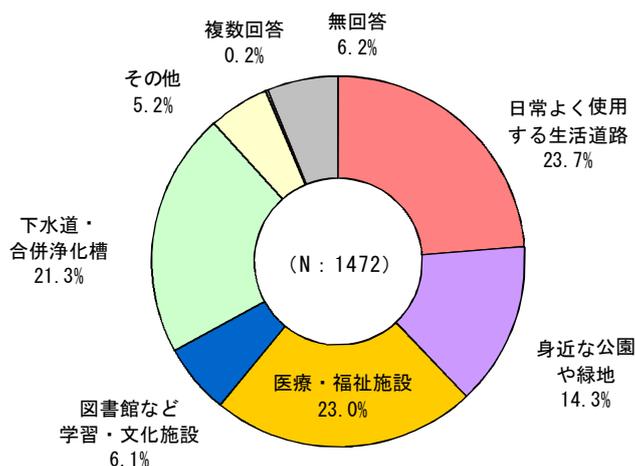


4. 都市施設整備の整備・改善について

① 特に整備・改善が必要なもの

- ・地域で特に整備・改善が必要なものとしては、「日常よく使用する生活道路」が最も多くなっていますが、「医療・福祉施設」、「下水道・合併浄化槽」とほぼ3分する結果となっています。
- ・高齢者では「医療・福祉施設」をあげる割合が最も高くなっており、若い年齢層では、「身近な公園や緑地」を上げる割合が最も高くなっています。
- ・「下水道・合併浄化槽」については、居住歴が長いほど、整備・改善が必要であるとする割合が高くなっているという傾向が見られます。

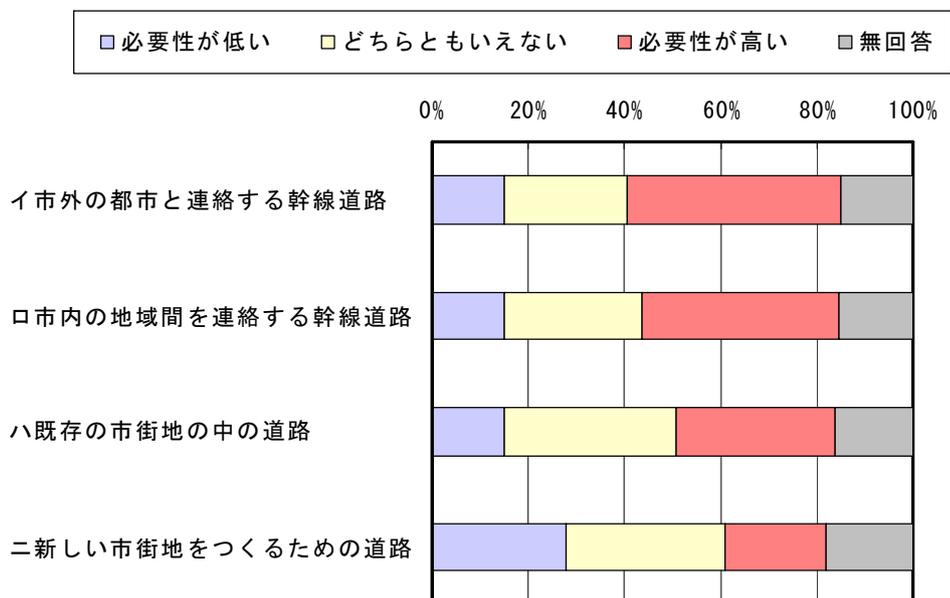
図 特に整備・改善が必要なもの



② 各種道路の必要性

- ・各種道路に関する必要性を比較すると、市外、市内を連絡する幹線道路に対して高い必要性が感じられており、既存市街地内の道路や新規整備道路に関してはそれほど必要性を感じていないという結果となっています。

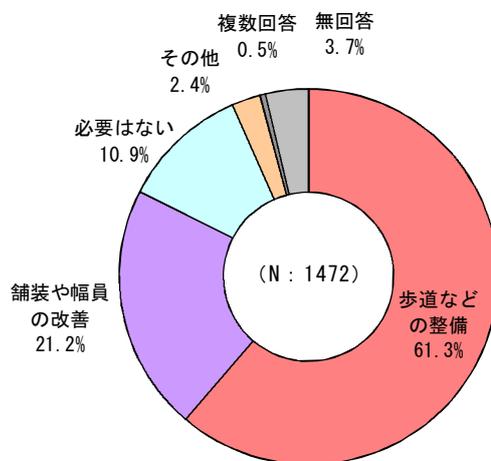
図 各種道路の必要性



③ 生活道路で必要な整備・改善

・生活道路で整備・改善すべきこととしては、「歩道などの整備」が最も多く、回答者の 61.3%に達しています。

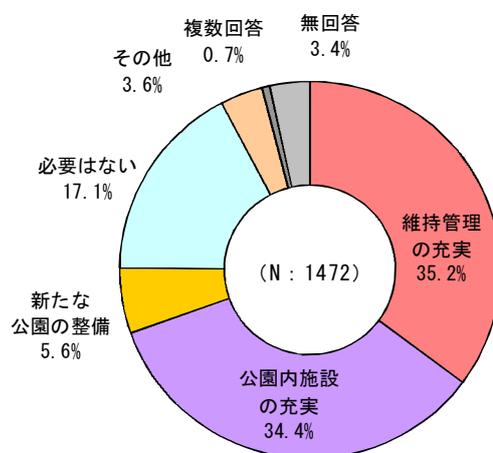
図 生活道路で整備・改善すべきこと



④ 身近な公園で必要な整備・改善

・身近な公園で整備・改善すべきこととしては、「維持管理の充実」が最も多く、次いで「公園内施設の充実」となっており、「新たな公園の整備」を求める割合は 5.6%にとどまっています。
 ・居住歴の長い回答者では「特に整備・改善の必要はない」とする割合が高く、逆に居住歴の短い回答者においては「新たな公園の整備」を求める割合が高いという傾向が見られます。

図 身近な公園で整備・改善すべきこと

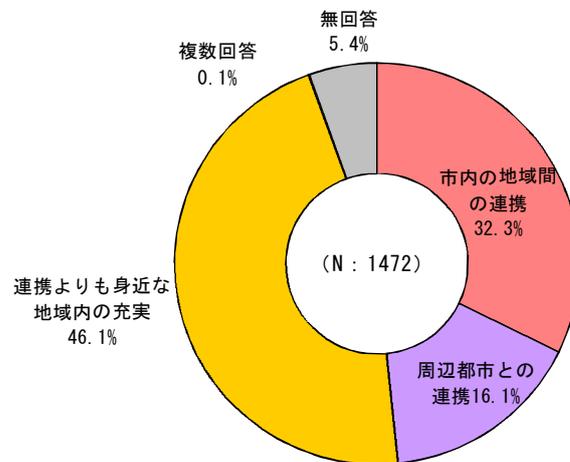


5. 今後のまちづくりについて

① 今後のまちづくりの重点

- ・今後のまちづくりの重点としては、「連携よりも身近な地域内の充実」が最も多く、次いで「市内の地域間の連携」となっています。
- ・若い年齢ほど「市内の地域間の連携」を上げる割合が高く、高齢になるほど「連携よりも身近な地域内の充実」を上げる割合が高いという傾向が見られます。

図 まちづくりで重要な点



② まちづくりで重要な施策

- ・今後特に重要な施策としては、「既存の商店街の振興」、「自然環境の保全」、「企業団地への工場の誘致」、「既存の住宅地の住環境向上」という順番となっています。

図 まちづくりで重要な施策

